

令和3年9月14日

各 位

一般社団法人 全国信用組合中央協会

第1回「しんくみブランド表彰」受賞活動の決定について

一般社団法人全国信用組合中央協会（会長：柳沢 祥二）（以下「全信中協」）が実施している、信用組合業界の表彰制度「しんくみブランド表彰」の受賞先がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

第1回「しんくみブランド表彰」受賞活動

○大賞

部門	信用組合名（都道府県）	受賞活動名
信用組合部門	西海みずき信用組合（長崎県）	「佐世保まちの学食」
役職員部門	金沢中央信用組合（石川県） いしだ じゅんいち 石田 順一 氏	“しんくみ流、市場史編纂 （近江町市場三百年史）

○優秀賞

部門	信用組合名（都道府県）	受賞活動名
信用組合部門	北郡信用組合（山形県）	読書を通じて、健全な子供の育成と心豊かな人・地域づくりを目指す「ほんのつうちょう（読書通帳）」の贈呈
信用組合部門	横浜幸銀信用組合（神奈川県）	CSR活動「こどもの未来プロジェクト」の取組み
信用組合部門	塩沢信用組合（新潟県）	コロナ禍における地域経済の活性化に向けた事業者等への支援活動とその活動を通じた「しんくみブランド」の訴求
信用組合部門	のぞみ信用組合（大阪府）	盲導犬育成事業への応援活動

信用組合は、営利を目的とせず、相互扶助（共助の精神）のもとに活動する金融機関です。地域経済の活性化や社会・コミュニティの課題解決に向けた取組み、各種の社会貢献活動等、相互扶助を具現化した活動に日々取り組んでおります。

「しんくみブランド表彰」は、これら信用組合業界の諸活動を多くの方に知っていただき、信用組合の基本理念である相互扶助と存在意義をより一層訴求することを目的に、今年度より実施するものです。

記念すべき第1回目である今回の表彰では、全国の信用組合、協会（地区協会及び都道府県協会）及び信用組合役職員が取り組んだ多岐にわたる活動のなかから、選考委員による厳正な審査の後、全信中協理事会（9月8日開催）を経て、大賞2先、優秀賞4先の活動が決定いたしました。

【本件に関する問い合わせ先】  
一般社団法人 全国信用組合中央協会  
ブランドコミュニケーション部  
TEL : 03-3567-2452  
(平日 : 9 : 00 ~ 17 : 00)

## 【大賞】

### 西海みずき信用組合（長崎県） 「佐世保まちの学食」

---

西海みずき信用組合は、新型コロナウイルスによる影響によりアルバイトが途絶えるなど、困窮する学生を支援すべく、地域で集めた募金を基に佐世保の学生たちに無料で食事を提供する応援プロジェクト「佐世保まちの学食」の取組みを2020年6月5日より実施している。

学生を対象とした事例は日本初であるとともに、困窮している学生の支援と客足の遠のいている飲食店を同時に支援することが可能な取組みとなっており、地域活性化に貢献している。

また、現在では、「佐世保まちの学食」に支えられた学生が、運営に参加し、その中枢を担うに至っており、さらには、ボランティア活動で地域に恩返しをするという、助け合いのリレーが生まれており、信用組合から始まった取組みが、地域一体となった活動に発展している。

**【スキーム】** まちの企業や地域の人々へ寄付を呼びかけ、その寄付を専用アプリによりデジタルの食事券として、申請のあった佐世保の学生（大学生、専門学校生など）に配布。そのデジタルのチケットにより、市内の協力飲食店（2021年7月現在10か店）で700円分の食事券として利用することが可能。

**【利用状況】** 3,054,370円の寄付（2021年3月末時点）が集まり、2,806食（2021年6月21日時点）の食事を学生へ提供。

## 【大賞】

金沢中央信用組合（石川県）      “しんくみ流”市場史編纂  
石田 順一 氏                      （近江町市場三百年史）

---

石田順一氏は、「近江町市場」の開場300年を迎えるにあたり刊行された『金沢市民の台所 近江町市場三百年史』において、2016年より編集委員長を務めるとともに、5年間にわたる編纂作業を経て、明治から令和までの執筆を行った。

同氏は、互いに助け合ってきた近江町市場への恩返しと、近江町市場の歴史は市場人の手によって編むことへの強いこだわりにより、方々を自らの足でまわる“しんくみ流”で取材や情報・資料収集、調査を行った。

その取組みは、大正時代に市場の入口に立ち、いつしかその姿を消したという「魚市場」の標柱が写った写真や、戦後ヤミ市と化した市場の秩序を取り戻すため正規の店に与えられた鑑札（かんさつ）、また、忘れ去られていた幻の市場CMソングの音源や、加賀藩前田家17代利建当主が市場を訪れて揮毫した屏風などの貴重な資料を発見発掘するという成果につながり、コミュニティを再認識する契機となった。

また、市内の商店街活性化を図るイベント企画に参加協力するため、近江町市場の歴史、地理、文化などを勉強したことをきっかけに、その後も、調査研究を継続、その結果、同市場に関する豊富な知識を得ることとなり、講演や執筆活動を多数行っている。

### 【近江町市場と金沢中央信用組合のつながり】

近江町市場は金沢中央信用組合の発祥の地で、現在まで98年続く組合活動の拠点でもあり、300年の歴史の実に3分の1を共に紡いでいる。大正13(1924)年に誕生した組合の創設者は、近江町市場史上に残る魚騒動「近江町争議」を先頭に立って解決に導いた野村喜一郎初代組合長であり、この歴史を300年史の中で詳細に刻んでいる。

## 【優秀賞】

読書を通じて、健全な子供の育成と心豊かな人・  
北郡信用組合（山形県） 地域づくりを目指す「ほんのつうちょう  
（読書通帳）」の贈呈

---

北郡信用組合は、村山市が取り組む、読書を通じた良好な親子関係の構築や健全な子供の育成に向けた「読書シティむらやま」宣言に貢献するため、2020年4月、同信組、(株)YCC情報システム、同市との連携により、村山市立図書館に3,000冊の「ほんのつうちょう※」を贈呈した。本取組みは、県内では3番目の事例となるが、官民が連携した事例としては県内初で、東北でも初の事例である。

「ほんのつうちょう」は、市内の全ての小学校の児童（7校923人）に配布され、配布後は、土日を中心に家族連れや友達同士での利用が目立つようになり、良好な親子関係の構築や、子供の読書意欲を高めることに貢献している。

また、「ほんのつうちょう」裏面には、同信組のロゴマークがデザインされており、利用を通じて「通帳＝金融機関＝北郡信用組合」といったイメージの定着が図られ、若年層に対する信用組合の認知度の向上、それを契機にした親世代等へのブランド力の向上にもつながっている。

### ※ほんのつうちょう

金融機関の預金通帳と同じ外観で、専用端末に通すと、書名や著者名、借りた年月日、本の定価が1冊ごとに「ほんのつうちょう」に印字される。通帳一冊で336冊分のデータが記帳できる。

## 【優秀賞】

### 横浜幸銀信用組合（神奈川県） CSR活動「こどもの未来プロジェクト」の取り組み

横浜幸銀信用組合は、2020年11月、「子どもたちの未来のためにできること」をテーマに「子どもの貧困解消」、「次世代の育成サポート」、「環境の改善とクリーンな社会の構築」の3つのアクションプランを掲げ、子どもや子育て世代を応援するCSR活動「こどもの未来プロジェクト」をスタートし、同信組のブランドの確立・浸透に繋げている。

また、同信組は、2020年12月にSDGs宣言を実施し、本アクションプランも具体的な取り組みとして盛り込まれている。

#### <アクションプランに基づく取り組み（一部）>

##### 【Action1】子どもの貧困解消

- ・内閣府主催の「子供の未来応援国民運動」へ参画し、寄付型自動販売機を設置。また、来客用オリジナルペットボトルを用意し、1本につき10円を寄付。

##### 【Action2】次世代の育成サポート

- ・プロ野球球団、プロサッカークラブとのスポンサー契約締結を通じた地域スポーツの振興。
- ・各営業店でこども図書館や近隣の幼稚園・保育園（26施設）へ絵本を寄贈。
- ・こども病院（営業店が所在する16県の同病院）への寄付。

##### 【Action3】環境の改善とクリーンな社会の構築

- ・しんくみの日週間での清掃活動
- ・新江ノ島水族館「えのすいecoサポーター」に加盟、江の島のビーチ保全活動の実施。

※上記オリジナルペットボトルの活動は、内閣府作成の「子供の未来応援国民運動パンフレット」（2020年3月）に紹介されている。

## 【優秀賞】

塩沢信用組合（新潟県）      コロナ禍における地域経済の活性化に向けた事業者等への支援活動とその活動を通じた「しんくみブランド」の訴求

---

塩沢信用組合は、コロナ禍の影響により、疲弊する地域経済の活性化に向け、多様な事業者支援に取り組むとともに、マスコミ等へプレスリリースを作成・配布し、積極的に情報発信を行っている。その結果、地域社会に貢献する同信組の存在感の向上、ひいては、しんくみブランドイメージの向上につながっている。

(1) 安心衛生サミットの開催（2020年度から4回開催）

地元の宿泊業者を集め、感染防止策や宿泊客を確保する方策等の共有化、意見交換を行っている。宿泊業者から発表された連携企画案の具現化により取引先の事業支援や地域活性化を目指している。

(2) “越後”逸品WEB商談会の開催（取引先27社、都内バイヤー43社が参加）

東京都内の信組と連携し、取引先の販路拡大を目的とした「“越後”逸品WEB商談会」を開催した。同商談会終了後、現在までの商談実績は11社、11件となっている。

(3) 幸せのリングージ運動（取引先48社が参加）

営業店毎に宿泊業者や飲食業者が開発したオードブルメニューをチラシや組合HPを通じて、地域住民に利用を呼び掛けている。販売実績は1,292件、売上は4百万円超となっており、うち同信組の呼びかけによる販売は419件にのぼっている。

(4) 地元で頑張る貢献団体表彰、地公体に対する寄付（2019年度より毎年実施）

地域文化の承継、地元農産物のアピール等、地域の振興・活性化等に貢献している地元団体に感謝状と金一封を贈呈している。

## 【優秀賞】

### のぞみ信用組合（大阪府） 盲導犬育成事業への応援活動

---

のぞみ信用組合は、2010年から12年にわたり、盲導犬育成事業を応援する定期預金と定期積金（商品名「パピーウォーカー※」）を販売し、毎年度末の預入残高を考慮した一定金額を社会福祉法人日本ライトハウスに寄付する社会貢献活動を継続している。

また、営業店店頭では当該預金商品のポスター等により育成事業をPRし、募金箱を設置して広く寄付金を募るとともに、一部の営業店舗では、地元商店街とタイアップし、盲導犬との体験歩行やグッズ販売、幼稚園児を招き盲導犬と触れ合うイベントを開催し、盲導犬の必要性に係る啓蒙活動に取り組んでいる。

※「パピーウォーカー」とは、盲導犬候補の子犬を1年間ボランティアで預かり育てる人のこと。

#### ◆ 寄付金明細

- ・ 信組預金商品による寄付金 12回総額 4,584,025円（盲導犬訓練車一式含む）
- ・ 募金箱からの寄付金 14回総額 768,228円

#### ◆ 営業店舗での盲導犬触れ合い活動実施状況

- ・ 2015年～2019年の直近5か年で12か店 計40回実施。（2020年度は新型コロナの影響により全店未実施）

以 上



< 参考 > 第1回「しんくみブランド表彰」について

1. 目的

信用組合、協会（地区協会及び都道府県協会）および信用組合役職員が取り組んだ社会貢献活動、しんくみの日週間活動ならびに信用組合の本業に付随した地域経済の活性化に向けた取組み等、信用組合の基本理念である相互扶助（共助の精神）を具現化した活動のうち、趣旨や成果につき優秀なものを表彰する。

これにより、信用組合業界の諸活動を内外に認知させるとともに、ブランドイメージの向上を図る。

2. 表彰対象

- (1) 信用組合部門 信用組合、協会（地区協会及び都道府県協会）  
※信用組合の営業部店単位での活動も含む。
- (2) 役職員部門 信用組合役職員  
※信組内サークル・グループ、部署単位の活動も含む。

3. 選考方法

しんくみブランド表彰選考会にて厳正に選考のうえ、表彰先候補を選定し、全信中協理事会で表彰先を決定する。

4. 選考のポイント

以下の項目を総合的に判断する。なお、活動の内容がすべての項目に該当しなくとも、特定の項目において顕著な取組みが認められる場合、評価の対象とする。

- ①継続性、②革新性、③課題解決性、④コミュニティとの一体性、⑤話題性、⑥模範性

5. しんくみブランド表彰選考会 委員 ※所属は令和3年9月現在、敬称略

- |        |                              |       |
|--------|------------------------------|-------|
| 中村 健   | 全国信用組合新聞社                    | 顧問    |
| 秋吉 顕   | ジャパングリーンハーツ株式会社              | 代表取締役 |
| 佐藤 雄二郎 | 株式会社共同通信社                    | 顧問    |
| 高橋 陽子  | 公益社団法人日本フィランソロピー協会           | 理事長   |
| 内藤 純一  | 一般社団法人全国信用組合中央協会・全国信用協同組合連合会 | 理事長   |
| 鈴木 均   | 全国信用協同組合連合会                  | 専務理事  |
| 吉澤 守   | 一般社団法人全国信用組合中央協会             | 専務理事  |
| 丸藤 保彦  | 一般社団法人全国信用組合中央協会             | 常務理事  |